

事故種類	公衆災害	発生日時	令和4年4月6日 4時45分	事故当事者	
事故区分	切断	年齢性別	72歳 男性	職種	ダンプトラック運転手
被災程度(全治)					
事故概要	・工事ヤード内で掘削残土を仮置きしたあと荷台をダンプアップしたまま発進・走行したことにより設置されていた架空線(NTT回線 アナログ回線:2回線、光回線:1回線)を損傷させた。 ・このことにより約40戸の電話回線が不通となった。				
事故原因等	・仮置き場にて土砂を下ろした後、警報装置が鳴っているにもかかわらず荷台をダンプアップしたまま発進・走行した。 ・見張り人を配置していたが、事故発生時には一時的に離れていた。				
改善策等	・警報装置が鳴っている状態では発進・走行しないことの再教育とダンプトラック運転手によるKY活動の実施。 ・見張り人は作業時には現地を離れない。 ・架空線明示柵の追加設置。 ・架空線保護カバーの追加設置。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・ダンプトラック運転手によるKY活動の実施。				

事故状況図



DTは残土を仮置きし、荷台が下がりにくい状況で走行



架空線(NTT)と接触、損傷

改善策



対策 架空線明示柵の追加



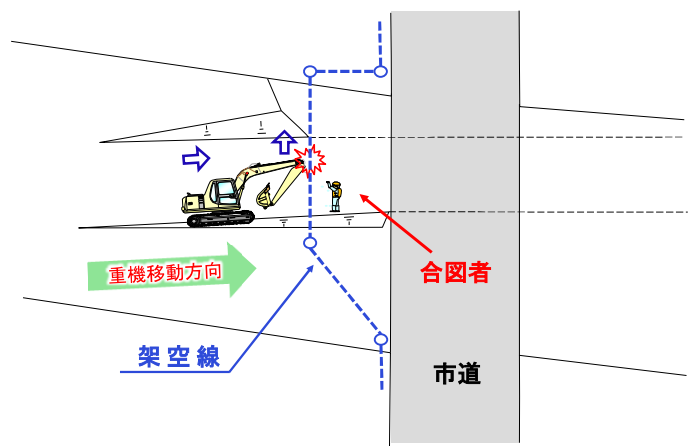
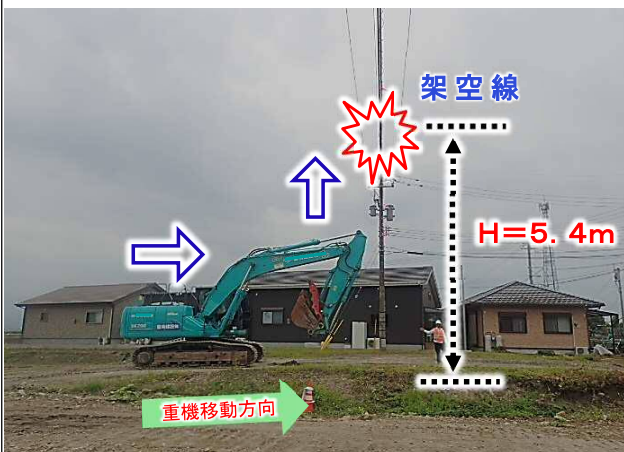
対策 架空線保護カバーの追加

○月 ○日 ダンプトラック運転KY	元請立合者サイン	本日作業内容	場外運搬								
		元請指示事項	所定ルートは、離合しにくい箇所は一発車両優先で進めること								
ひと声かけて危険ゼロ！ルールを守って安全作業！											
予想される災害・事故	私達はこうする(本日の行動目標)										
いつ・どこで 一般道路 事業道路 工事用道路 交差点部 現場出入口部 DTバック時	何が・何して スピード超過で 後行しないで 一旦停止しないで 左右確認しないで ガードマンの指示に従わず 合図確認しないで 誘導員の指示に従わず よそ見をして	どんな事故災害 第三者と接触・衝突 一般車両と接触・衝突 保安設備と接触・衝突 ガードマンと接触・衝突 バックホウと接触・衝突	いつ 運転中は 交差点部では 現場出入口部では DTバック時は								
どうする 第三者に配慮した運転を行う 一発車両優先で運転する 道路交通法遵守 ガードマンの誘導に従う バックホウオペの合図に従う 誘導員の指示に従う 自分で目視確認を行う ゆとりを持った運転を心掛ける	架空線と接触	荷台上げる時 荷台上げた後 荷台下げた時 工事用道路走行は	上空の目視確認を行う 監視員の指示に従う 必ず架空線明示柵を通る 荷台を下げるまで動かない 警告音が消えるまで動かない 監視員の記録を行う 作業を一時中断する								
※輸出してOで囲うこと											
No.	氏名	体調確認	No.	氏名	体調確認	No.	氏名	体調確認	チェック項目	チェック	
1	太郎	○	5			9			・運行ルートは確認したか	レ	
2	次郎	○	6			10			・アルコールチェックを行ったか	レ	
3	四郎	○	7			11			・睡眠は十分に取ったか	レ	
4			8			12			・発案前中は元請に立会って行ったか(警告音確認等)	レ	
				※体調確認 良ければ○を記入				※チェックは全員確認で○点のこと			

対策 ダンプトラック運転手によるKY活動の実施

事故種類	公衆災害	発生日時	令和4年5月31日 11時45分	事故当事者	1次下請け
事故区分	切断	年齢性別	—	職種	
被災程度(全治)	通信ケーブル切断(1本)				
事故概要	工事現場内から場外へ搬出するためバックホウを移動中に、バックホウのアームが地面に接触したことで動揺してしまい、走行しながらアームを上げてしまったことにより、架空線に接触し切断した。				
事故原因等	バックホウ移動中に、バックホウのアームが地面に接触したことで、動揺してしまい走行しながらアームを上げたことが要因である。				
改善策等	① 架空線付近でのバックホウ操作について、オペレーターは自からの意思を先行して操作を行わないよう、安全教育にて関係者へ周知徹底する。 ② 架空線に対し、手前5mにマーキング等停止位置を設置する。 ③ 架空線に対して、バックホウの先端が5m手前の位置で一旦停止を行い、オペレーターと合図者にて安全確認後、移動を再開する。 ④ 安全巡視日誌に点検項目を追加し、巡視・点検を行う。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・架空線手前で一旦停止を行い、安全確認を行う。 ・マーキング等により停止位置を設置する。 ・安全巡視日誌にチェック項目を追加する。				

事故状況図



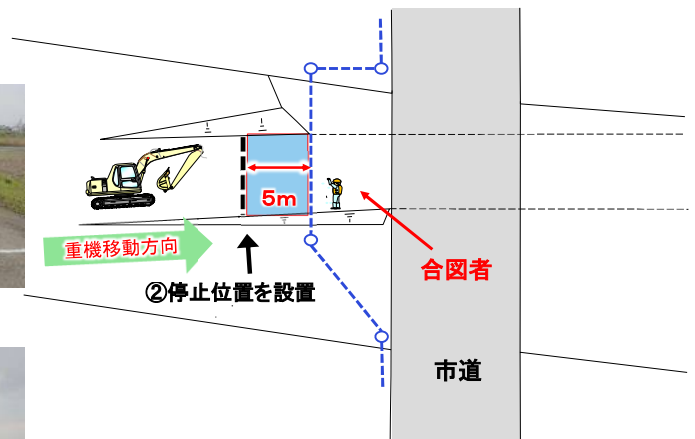
バックホウを移動中に、走行しながらアームを上げてしまい、架空線に接触し切断

改善策

① 安全教育による周知徹底



② 架空線、手前5mに停止位置を設置



安全確認後、移動再開



③ 5m手前で一旦停止し安全確認

④ 安全巡視日誌に点検項目を追加し、巡視・点検を実施

作業中・終業時	42. 飛散防止・資材の保管・跡片付け		
	43. 運搬路・工事用道路の状態		
	44. 発電機の漏電遮断器の作動		
	45. 発電機の配線の状態(アースを含む)		
	46. 手順書変更時の処置		
	47. 架空線等付近のBH移動状況(一旦停止等)		

事故種類	労働災害	発生日時	令和4年6月2日11時28分	事故当事者	生コン運転手
事故区分	その他	年齢性別	73歳 男性	職種	一般運転手
被災程度(全治)	左足脛骨折(全治1.5ヶ月~2ヶ月)				
事故概要	現場内にて元請け作業員の運転する車両(軽バン)を後進させた際、歩いていた生コン車運転手に衝突し、左足を負傷した。 (現場は水路函渠の生コン打設中。元請け作業員(軽バン運転手)は、現場外の事務所に熱中症対策の飲料水を取りに行くため、現場内を後退運転していた。生コン運転手は、現場内のトイレより、徒歩にて車両に戻る途中)				
事故原因等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現場内を、進行方向が確認しにくい後進運転にて移動した。 2. 歩行者通路と車両移動用道路との区別がなかった。 3. 駐車場の表示がなく、空きスペースに乱雑に駐車していた。 				
改善策等	<ol style="list-style-type: none"> 1. カラーコーン・バー及び鉄ピン・トラロープによる、歩行者用安全通路を設置する。 2. 作業員の駐車場を現場内に設ける。 3. 「駐車以外の後進運転禁止」看板を入場口・駐車場所に2枚設置。 4. 資材の整理整頓を行い、カラーコーン・バーにて周囲を囲む。 5. コンクリート打設時の場内に、交通誘導員を1名配置。 6. 生コン車両待機場所に、固定トイレを設置。 7. 生コン車両待機場所の路肩に注意喚起表示を行う。 朝のKY時と、新規入場者教育にて指導する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等					

事故状況図

事故等発生状況の説明図及び写真等



改善策

配置計画書

令和4年6月5日



設備

- 歩行者通路
- カラーコーン
- 鉄ピン・トラロープ
- 駐車線
- 看板
- 移動式トイレ
- 歩行者用安全通路(生コン打設時)

備考

資材は、整理整頓を行う。

当該計画は、新規入場者教育時・KY時に他同し、作業員に周知徹底する。

令和4年6月5日 11時44分
 現場 生コン打設中
 生コン車待機場所

対応状況により再確認しました。



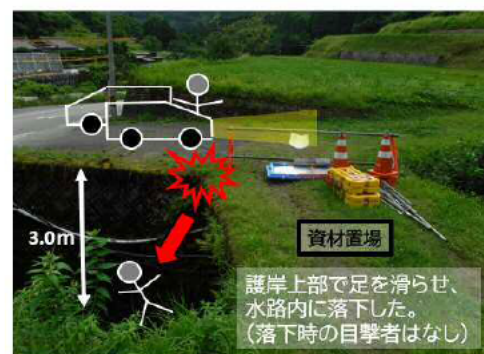
事故種類	労働災害	発生日時	令和4年6月23日 3時35分	事故当事者	2次下請け
事故区分	墜落・転落	年齢性別	32歳 男性	職種	交通誘導員
被災程度(全治)	左眼窩底骨折、両手舟状骨骨折、左足関節内果骨折				
事故概要	通行止規制の解除後、安全資材を回収し仮置き場に搬入する際、仮置き場の手前に設置していた第三者進入防止用のバリケードを移動させず、狭い隙間を通ろうとした。その際、護岸上部で足を滑らせて仮置き場横の用水路(深さ3m)に転落した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> 仮置き場所の第三者進入防止用バリケードを移動させずに狭い隙間を無理に通ろうとした。 用水路への転落防止措置が為されていないかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> 規制材置場を現場架設ヤード内に変更する。 基礎杭工事に使用する建設機械を操作する作業員の転落を防止するために、用水路側に転落防止柵を設置する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	工事関係者が立ち寄る箇所について高低差がある場合は転落防止措置を施す。				

事故状況図

規制資材の回収・運搬状況(平時)



事故発生時の状況



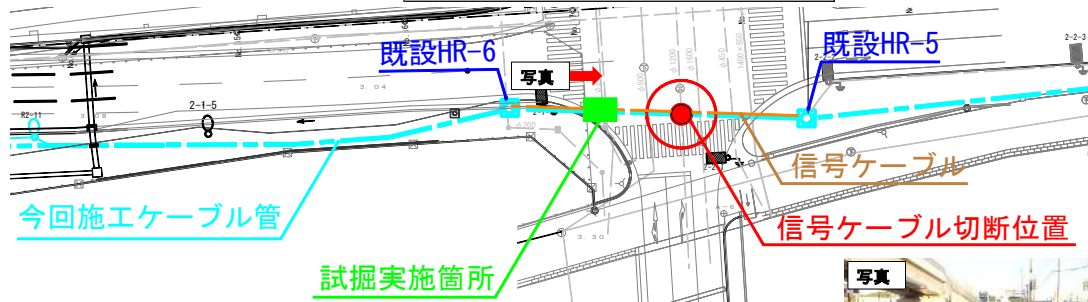
改善策

- ①規制材置場を現場架設ヤード内に変更する。
- ②基礎杭工事に使用する建設機械を操作する作業員の転落を防止するために、用水路側に転落防止柵を設置する。



事故種類	公衆災害	発生日時	令和4年7月1日23時45分	事故当事者	2次下請け
事故区分	切断	年齢性別		職種	
被災程度(全治)					
事故概要	道路情報板管路埋設工事において、交差点部の鉋さい撤去のため65cmカッターで舗装版切断中、信号ケーブルを切断した。 信号ケーブル切断により、交差点内の車両用信号6基が点滅に変わり、車両用信号2基と歩行者用信号12基が消灯する事案が発生、復旧まで約6時間を要した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドホール間の位置、既設管路埋設舗装跡、探査機、試掘から地下埋設管路の位置を想定したが、想定が十分でなかった。(探査は異なる熟練者が2回、試掘は浅埋が懸念される箇所で行っており、浅埋管があるとは想定出来なかった。) ・管路埋設位置は交差点内であり、交通規制の関係上、試掘位置が限定された。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・試掘については、10m間隔に1箇所以上、又は、既設ハンドホール間では2箇所以上行う。(従来:数値の基準等無し) ・地下埋設物探査について、1.0m間隔で調査を行う。また、調査記録を残し調査者以外のものがチェックする。(従来:約1.5m間隔、現地マーキングのみで書面での記録等は無し) ・埋設物が確認された箇所については、既設管路との離隔を十分確保した位置に新設管路を設置する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・特記仕様書に基づき確実に埋設物調査を実施する。 ・既設埋設管路の部分的な配置のずれや上越し等を想定して新設管路の施工計画を立てる。 ・事務所の他工事関係者へ周知し、再発防止を図る。 				

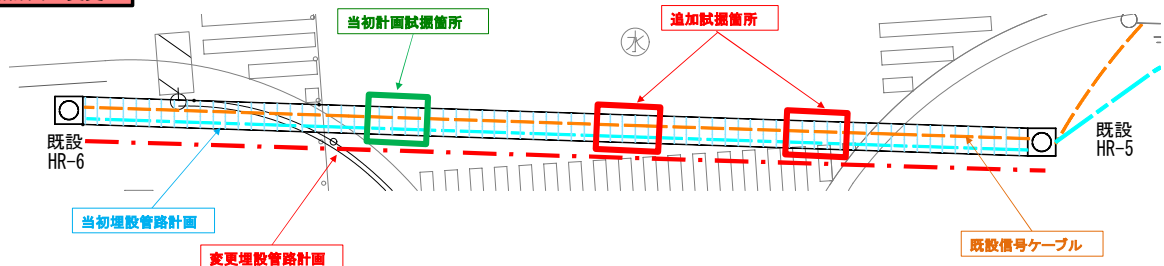
事故状況図



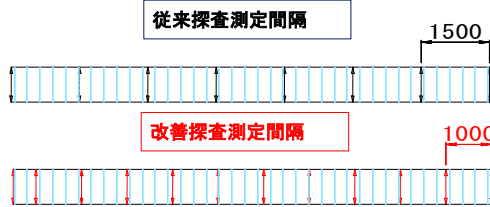
改善策

試掘箇所を追加

管路計画の変更



地下埋設物探査方法の変更



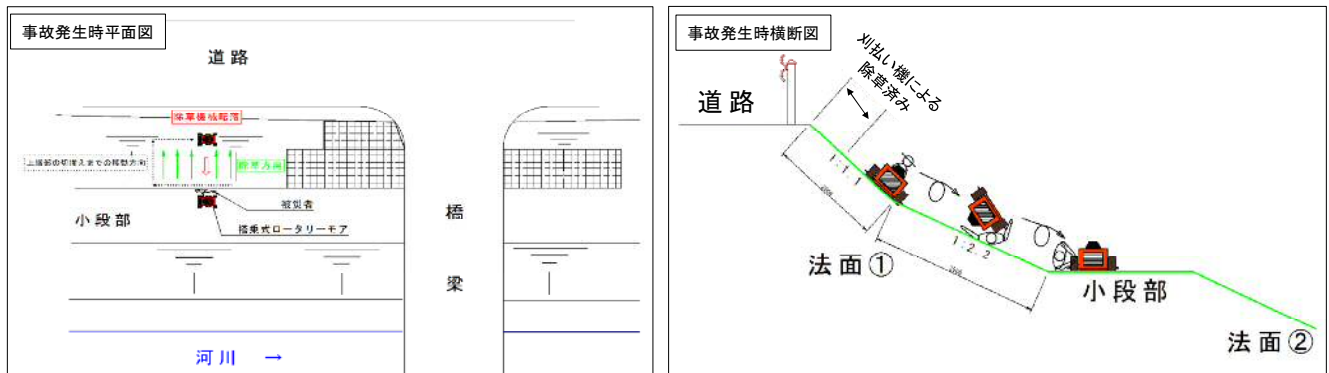
地下埋設物探査を行い、結果を記録し、調査者以外の者が再確認

事故種類	労働災害	発生日時	令和4年7月12日 16時25分	事故当事者	1次下請
事故区分	墜落・転落	年齢性別	68歳 男性	職種	普通作業員
被災程度(全治)	骨盤多発骨折(入院期間:2か月、治療期間:6か月)				
事故概要	河川堤防の除草作業が終了し、除草機械の片付け・清掃の為に他者にブローアを持ってくるように依頼した空き時間に、除草機械(搭乗式ロータリーモア)に搭乗し、堤防法面を除草していたところ、除草機械ごと転落・被災した。				
事故原因等	作業指示されていない堤防法面除草箇所において、作業員の判断で、本来、堤防法面を使用する予定のない除草機械(搭乗式ロータリーモア)で除草したことにより、その結果、除草機械ごと転落、被災した。				
改善策等	<p>①当日指示を受けた作業予定に変更が生じる場合には、現場責任者への報告を義務づけるとともに、現場責任者は現地確認の上、新たに作業指示を行う。また、作業前には現地にてKYを再度行い、作業に取りかかる。</p> <p>②熟練技能者による慣れ、経験未熟者の知識不足からなる不安全行動をなくすため、今回、事故に関して行う臨時安全教育並びに今後開催する安全教育において、不安全行動をなくす指導を行う。</p> <p>③慣れや危険軽視によるヒューマンエラーがなくなるよう、作業員に週1回ヒヤリハット報告の提出を行わせる。提出された内容は安全教育・訓練にてフィードバックする。</p> <p>④作業員同士が互いを視認できる状況で作業を行えるように、概ね延長100mの範囲に3名を目安に、除草作業に支障のない離隔を考慮した上で作業員を配置する。</p> <p>⑤今後、本工事において搭乗式ロータリーモアは使用しない。なお、平地で作業するハンドガイド式ハンマーナイフモア、トラクターロータリーモアについては、運転者の見える位置に『法面への立入禁止!』の注意喚起表示を行う。</p>				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	今回、作業員が行った不安全行動により起きた事故の内容と再発防止策について、事務所管内の施工業者へ周知、注意喚起を行う。				

事故状況図

【事故概要】

- ・作業指示は搭乗式ロータリーモアによる小段部の除草となっていた。
- ・除草機械の片付け・清掃のために、他者にブローアを持ってきてもらうよう依頼したが、少し時間がかかることが想定されたため、空き時間で除草を行った。
- ・当該法面は刈払い機及びラジコンモアにて除草を行うことは認識してしたが、法勾配も緩いことから法面を登りながらであれば当該除草機械で作業できると思い実行した。
- ・最後に法面に対して横向きに除草機械を走行させていたところ、法面がきつくなっており、除草機械ごと転落、被災した。



改善策

- ①当日指示を受けた作業予定に変更が生じる場合には、現場責任者への報告を義務づける。
現場責任者は現地確認の上、新たに作業指示を行う。また、作業前には現地にてKYを再度行い、作業に取りかかる。
- ②今回、事故に関して行う臨時安全教育並びに今後開催する安全教育において、不安全行動をなくす指導を行う。
- ③作業員が週1回、ヒヤリハット報告を提出。提出された内容は、安全教育・訓練にてフィードバックする。
- ④作業員同士が互いを視認できる状況で作業を行えるように、概ね延長100mの範囲に3名を目安に作業員を配置する。
- ⑤平地で作業する除草機械に『法面への立入禁止!』の注意喚起表示を行う。

※ 注意喚起表示イメージ

ハンドガイド式
ハンマーナイフモア



法面への立入禁止!



※操作人から見えるように表示

トラクターロータリーモア



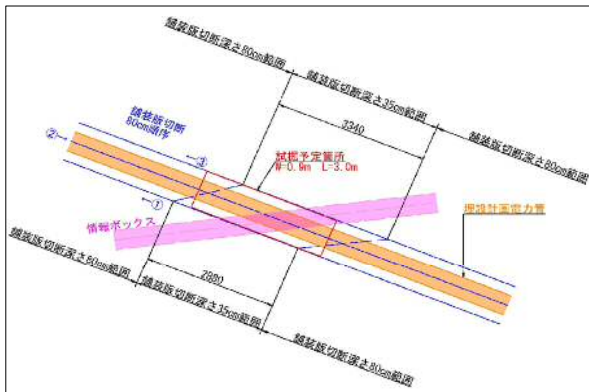
法面への立入禁止!

※運転席から見えるように表示

事故種類	公衆災害	発生日時	令和4年7月21日22時30分	事故当事者	1次下請け
事故区分	切断	年齢性別		職種	
被災程度(全治)					
事故概要	<p>・電線共同溝工事において、電力管路が情報ボックスと交差する計画であった。そのため、過年度の調査結果及び事前調査結果に基づき、試掘箇所を余裕を確保し選定した。 その上で、情報ボックスの埋設範囲外と想定される箇所で電力管路敷設のため、舗装版切断を行っていたところ、試掘予定範囲外にあった情報ボックスを切断した。</p>				
事故原因等	<p>当該工事の受注業者が過年度に近接箇所で電線共同溝工事を施工してきたが、情報ボックスの位置については、全てで設計図書や台帳等と現場実測埋設位置が合致していた。 今回も情報ボックス位置については、当該区間の前年度試掘結果を確認すると設計図書や台帳等と現場実測埋設位置がほぼ合致しており、更に今年度も当該区間で試掘調査を追加に行ったが、過年度同様に合致していることを確認していたため、これに基づき施工計画を行った。 また、施工に関しては、より安全側での施工を計画し、情報ボックス実測位置から1mの離隔を確保していたが、当該箇所に関しては、実測した埋設位置より約1.7mのずれがあり切断した。</p>				
改善策等	<p>・地下埋設物探査について、探査範囲を拡大し、更に複数回行うことで、対象埋設物件の探査調査の精度を上げる。 ・地下埋設物件が想定される箇所は、部分的な配置のずれや上越し等を想定して試掘範囲を広げて計画を立てる。 また埋設物が確認出来るまでは、本掘削に着手しない。</p>				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<p>・特記仕様書に基づき確実に埋設物調査を実施する。 ・既設埋設管路の部分的な配置のずれや上越し等を想定して試掘計画を立てる。 ・事務所の他工事関係者へ周知し、再発防止を図る。</p>				

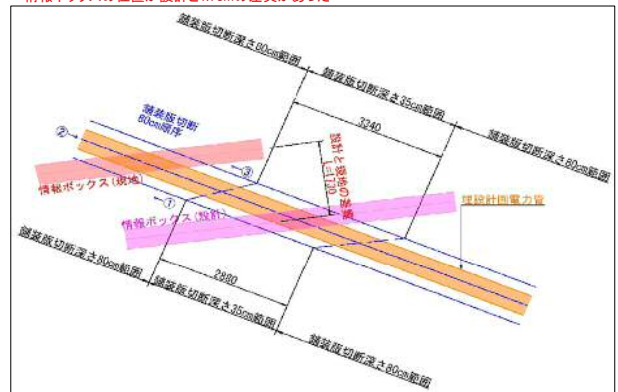
事故状況図

舗装版切断計画時詳細図



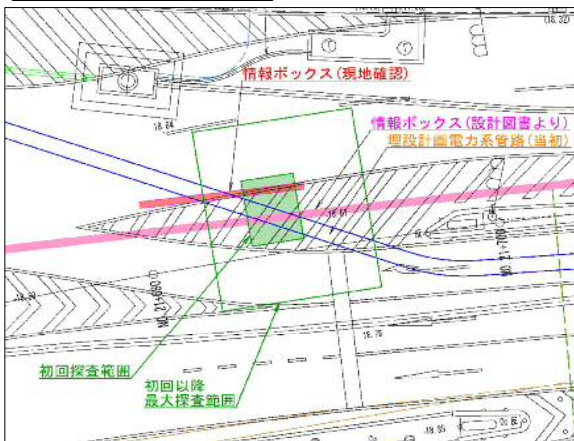
舗装版切断事故時詳細図

情報ボックスの位置が設計と1.73mの差異があった

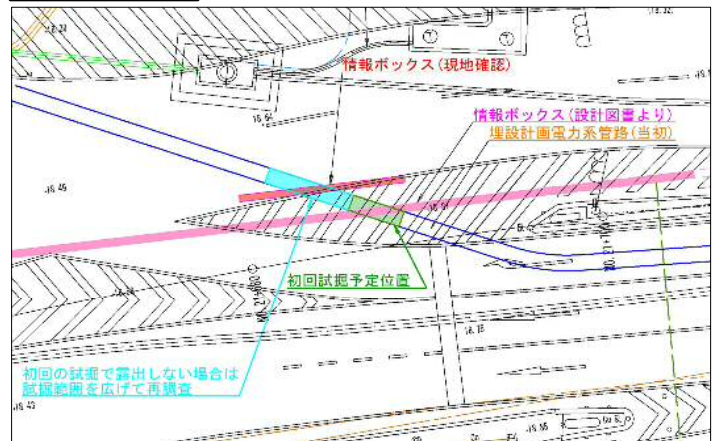


改善策

埋設物探査の精度を上げる



試掘範囲を広げる



間接法で確認出来ない場合は、外部コイル法又は直接法にて再確認

地下埋設物件が確認出来るまで、本掘削(舗装版切断等)には着手しない